

(様式第2号)

福祉サービス第三者評価結果報告書

1 評価機関				
名 称	有限会社 アウルメディカルサービス			
所 在 地	岡山県岡山市北区岩井2-2-18			
評価実施期間	平成26年1月20日～平成26年4月28日			
2 事業者情報		【平成 25年 12月 20日現在】		
事業所名称：	津島児童学院	サービス種別：	情緒障害児短期治療施設	
管理者氏名：	黒田 みき子	開設年月日：	昭和37年 4月 1日	
設置主体：	社会福祉法人 旭川荘	代表者 職・氏名：	末光 茂	
経営主体：	社会福祉法人 旭川荘	代表者 職・氏名：	末光 茂	
定員：	30名	利用人数：	20名	
所在地：〒700-0012 岡山県岡山市北区いずみ町3-12				
連絡先電話番号： 086-252-2185		FAX 番号： 086-256-8040		
ホームページアドレス： http://www.asahigawasou.or.jp/tsugakuHP/page/		E-mail： tsugaku@asahigawasou.or.jp		
サービス内容（事業内容）				
○児童一人ひとりの人権を尊重し、安全・安心な生活を保障し、医療・心理・生活・教育および家庭支援など、専門的、多面的支援により、情緒の障がいや家族関係の改善を図ることで、家庭・地域社会への早期復帰を目指す。 ○退所児童・家族また地域の子育てに困難さを持つ児童・家庭などに対して積極的に相談支援を行う。				
居室の概要		居室以外の施設設備の概要		
1人部屋 8部屋 2人部屋 6部屋		静養室、デイルーム、食堂、洗濯室、予備室、ファミリールーム、心理治療室、心理検査室、相談室、事務室、木工室、資料室、厨房、医務室、小学校派遣学級（クラスの教室、音楽室、理科室、家庭科室、CP室など）		
職員の配置				
	職 種	人 数	職 種	人 数
	施設長	1名	保育士	1名
	事務員	1名	管理栄養士	1名
	主任指導員	2名	臨床心理士	3名
	指導員	4名	家庭支援専門員	1名
	看護師	1名	その他	7名

3 評価結果総評

◇特に評価が高い点

【子どもによる自治会活動】

子ども達が主体となった自治会が月1回開催されており、子ども達自身が意見や要望、今困っていることなどをまとめて職員へ報告している。出された報告に対して職員は真摯に向き合い、出来る事は反映し、出来ない事はその理由を伝える等、必ず答えを返すようにしている。こうした日々のやり取りが子どもとの信頼関係を構築すると共に、子どもが自分の意見に責任を持つ意識を育む一端を担っている。

【のびろ学級の取り組み】

施設機能強化推進事業としてのびろ学級を開催している。情緒障がいを持った子ども達が地域でスムーズに生活できるよう、入所児童の保護者や施設関係者、学校関係者などを対象に実施している。外部講師を招き、子どもが抱えている課題やその思い、周りの支援などを伝えている。こうした一歩ずつの取り組みが関係者に理解を促し、優しい社会づくりに繋がると思われる。できれば一般の方々にも門戸を広げて頂き、知る機会を作って頂く事を期待する。

【家庭復帰への取り組み】

家庭支援専門相談員を中心に家庭の自立支援計画書を作成し、家庭復帰できるよう保護者への支援に取り組んでいる。家庭訪問や外出、外泊の推進、ファミリールームでの親子宿泊などその取り組みは多岐に渡っている。また、発達障がいや学習障がい等について保護者に理解を促し、家庭復帰した後の子どもとの生活に向けた助言や情報提供など行っている。家庭支援専門員との対話の中で保護者自身がなくしていた自信を取り戻し、家庭復帰に向けて前進することが可能となっている。

【心理治療の成果とチームワーク】

顧問医師と心理士の連携した治療により、子どもの精神面に落ち着きがみられている。以前は窓ガラスを割るなど衝動的な行動があったが、今年度はほとんどなかった。また、子どもの笑顔が増えているのも感じているとのこと。生活、心理、家庭それぞれの担当職員がお互いに情報を共有し、子どもの課題に一丸となって対応してきた証しだと思われる。

【ボランティアの力】

毎週月曜日には地区の民生委員や主任児童委員の方が来所し、施設内の掃除をしてくれている。また、年3回の大掃除の際も協力してくれている。他にも行事手伝いや学習ボランティア、サッカー練習、クッキング教室（桜餅、クレープなど）、お茶、読み聞かせなどいろいろな分野での協力が得られているのが素晴らしい。大勢の人が来所することで風通しのよい施設運営にも役立っている。

◇改善が求められる点

【ファミリールームの活用】

台所付きの6畳の和室という、とても家庭的な部屋が設けられている。親子宿泊や退所前の生活訓練などに利用されているが、まだまだ活用時間は少ないと感じる。活用方法について会議等で検討して頂き、新たな活用方法が加わることを期待している。

【入所のしおりの工夫】

入所のしおりは児童用、保護者用と用意されているが、どうしても項目や文章が多く、分かりづらい面がある。できれば小学生用や中学生用など年齢に応じたものや発達障がいや精神疾患を抱えている保護者に対してイラストなど工夫し、分かりやすいものを用意してはどうだろうか。

【スカイプの推進】

県外からも子どもを受け入れているが、距離が遠い事から面会が少なくなり、保護者と一緒に過ごす時間が減ってしまいがちである。対策として顔を見ながら話ができるスカイプの導入も検討されていると伺った。近年、スマートフォンを所持している親も多いため、県外の子どもの為だけでなく近くに住んでいても利用できる方は多いかもしれない。導入に向けて前向きに検討して頂きたい。また、ホームページの充実を図るなど、遠くにいても子どもの生活を垣間見ることができるよう取り組みもお願いしたい。

【治療のマニュアル化】

生活、心理、家庭の3分野の担当職員のチームワークにより、課題を抱えた子ども達が少しずつ治療の成果が出始め、落ち着きを取り戻し、家庭復帰も増えている。これまでの経験を基に課題をグループ分けし、治療や支援のマニュアルを作成してはどうだろうか。明文化という困難な作業だが、今後の支援、治療に活かすことができるだろう。また、学校や行政、保護者など関係者に標準的な支援や治療を提示することで、不安感の減少や治療への希望のきっかけになると思われる。

4 第三者評価結果に対する施設のコメント

津島児童学院では、平成23年度に岡山県より民間移譲（社会福祉法人 旭川荘に移譲）を受けて以降、施設内で様々な対策検討委員会を設け、課題の改善に取り組んできました。今回、客観的に施設の状況を把握し、今後の課題を明確にすることを目的として、第三者評価を受審しました。

私たちが目指すのは、「様々な心理的困難を抱える児童・家族への治療・支援の質の向上」ですが、第三者評価を、我々の強みと弱みの両方を知り、その上で今後具体的に何をなすべきか、という方向を探るために、「受審」を位置付けたいと考えています。

今回の受審により、様々な気づきを得ることができました。今後は、治療・支援の質の向上を目指して、「チームワーク」や「外部や地域の力」「子どもによる自治会の取組」などの強みを用いながら、さらに「ファミリールームの活用」や「スカイプ（テレビ電話）の推進」などによる親子関係の再構築、また「治療・支援を関係者にわかりやすく示す」ことで治療・支援の理解や「希望のきっかけ」につながるよう、真摯に取り組んでいきたいと考えています。

5 第三者評価結果（別紙）

第三者評価結果（情緒障害児短期治療施設）

1 治療・支援

(1) 治療	第三者評価結果
① 子どもに対して適切な心理治療を行っている。	a・b・c
② 子どもの心身の状況や、生活状況を把握するため、手順を定めてアセスメントを行い、子どもの個々の課題を具体的に明示している。	a・b・c
③ 心理治療は、自立支援計画に基づき子どもの課題の解決に向けた心理治療方針を策定している。	a・b・c
④ ケース会議を必要に応じて実施している。	a・b・c
⑤ 医師による治療が必要な子どもに対する適切な治療及び職員の支援を実施している	a・b・c
(2) 生活の中での支援	
① 子どもと職員との間に信頼関係を構築し、常に子どもの発達段階や課題に考慮した支援を行っている。	a・b・c
② 子どもの協調性を養い、社会的ルールを尊重する気持ちを育てている。	a・b・c
③ 多くの生活体験を積む中で、子どもがその課題の自主的な解決等を通して、子どもの健全な自己の成長や問題解決能力を形成できるように支援している。	a・b・c
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	
<p>3名の臨床心理士が担当している子どもと1対1で関係を作り、箱庭療法や治療面接、遊戯療法など1人ひとりに合わせて心理治療を行っている。セラピスト会議にて情報共有し、色々な視点から意見交換を行い、より適切な治療を行えるよう努めている。ケース会議にて生活、心理、家庭それぞれの担当職員が子どもの課題について話し合い、自立支援計画作成し、それに基づいた心理治療を実施している。毎日、医師が来所しており、定期的に子どもの面接や職員の相談、困りごとに対して助言するなどスーパーバイズの役割を担っている。</p> <p>子どもは家に帰りたいという思いを常に抱えており、時に混乱や不穏を招くこともあるが、生活の担当職員を中心に思いに寄り添いながらきちんと理由を説明し、信頼関係の構築に努めている。担当職員と一緒に外出したり、ファミリールームで過ごしたりすることもあり、担当職員との関係づくりに重きをおいている。</p> <p>畑や工作、リフォームのペンキ塗り、お正月の門松作りなど色々な生活体験を一緒に行っている。畑に何を植えるか、ペンキは何色にするか等、子どもの意見を聞き、取り入れることで自分の意見が反映される楽しさを感じることができ、次回への意見や発言に繋がっている。ボランティアによる絵画教室やサッカー教室、お茶、生け花など行われており、興味のある子どもは参加している。今後も畑や日曜大工などみんなで力を合わせることを楽しいと感じられる取り組みを発展させていきたい。</p> <p>お手伝いをしたら掲示板にシールを貼り、10個たまるとご褒美がもらえる。始めはご褒美が目当てだった子ども達がだんだんと何かをして感謝されるという嬉しさを感じる取り組みへと変化しているという。コツコツと頑張る姿を認めてもらえるお手伝いシールは素敵な取り組みである。</p> <p>昼食後、申し送りや話し合いの集合時間を設けている。今月の目標確認や看護師からの注意事項、先生からの一言と子どもの司会により進行される。子ども達はきちんと正座をして話を聞き、意見を発言することもできている。子ども達から職員に意見や提案が出されることもある。</p>	

(3) 食生活	第三者評価結果
① 食事をおいしく楽しく食べられるよう工夫し、栄養管理にも十分な配慮を行っている。	Ⓐ・b・c
② 子どもの生活時間にあわせた食事時間の設定を含め、子どもの発達段階に応じて食習慣を習得するための支援を適切に行っている。	Ⓐ・b・c
(4) 衣生活	
① 衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを提供している。	Ⓐ・b・c
② 子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	Ⓐ・b・c
(5) 住生活	
① 居室等施設全体を、生活の場として安全性や快適さに配慮したものにしている。	a・Ⓑ・c
② 発達段階に応じて居室等の整理整頓、掃除等の習慣が定着するよう支援している。	Ⓐ・b・c
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	
<p>昼食は子ども達、学校職員、施設職員と一緒に食べており、とてもにぎやかで楽しい食事風景である。入所当時は偏食や野菜嫌いな子どもが多いが、多彩なメニューにより徐々に食べられるようになってきている。また、食事の姿勢やお箸の使い方なども随時指導している。月1回給食会議を開催し、献立のチェックや季節の料理、嗜好調査など検討している。夏休みには子ども主体の給食委員会も加わり、話し合いをしている。誕生日は本人の希望メニューを提供しており、みんな楽しみにしている。</p> <p>衣生活について、担当職員を中心に適切な衣習慣が備わるよう指導している。衣類は季節に合わせて子どもと一緒に買い物に行っている。また、中高生になると洗濯も自分でやっている。</p> <p>居室は高校生は個室、小、中学生は1～2人部屋となっている。2人部屋はカーテンで間仕切りし、プライバシーを確保している。中学生になるとベッドを使用し、自分の領域を持つことができる。高校生になると自分で部屋の鍵を持ち、管理している。年齢に応じて担当職員が居室の整理を一緒に行ったり、本人に掃除を促したりし、責任を持って自分の領域を整理できるよう支援している。施設自体、年数が経過し古さは否めないが、定期的な地域ボランティアの清掃もあり、清潔に保たれている。</p>	

(6) 健康と安全	第三者評価結果
① 発達段階に応じ、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。	a・Ⓑ・c
② 医療機関と連携して一人一人の子どもに対する心身の健康を管理するとともに、異常がある場合は適切に対応している。	Ⓐ・b・c
(7) 性に関する教育	
① 子どもの年齢・発達段階に応じて、異性を尊重し思いやりの心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a・Ⓑ・c
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	
<p>何らかの病気や発達障がい等がある場合、子どもに分かりやすく説明を行い、自己管理ができるよう支援している。服薬についてマニュアルを作成し、職員の見守りのもと、自分で服薬する習慣が持てるよう指導している。通院している場合、日頃の様子や変化を主治医に情報提供し、連携を図りながら治療に努めている。</p> <p>性教育について年1～2回、外部から講師を招き、ワークショップを開催している。思春期の男女が共同生活している環境なので、プライベートゾーンについて折に触れて伝えている。また、生理が始まった時や性に関心のある子どもには個別に話をしている。</p>	

(8) 行動上の問題及び問題状況への対応	
① 子どもが暴力、不適応行動などの問題行動をとった場合に適切に対応している。	Ⓐ・b・c
② 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体に徹底している。	Ⓐ・b・c
③ 虐待を受けた子ども等、保護者からの強引な引き取りの可能性がある場合、施設内で安全が確保されるよう努めている。	a・Ⓑ・c
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	
<p>子どもが混乱やパニック状態になった場合、複数の職員で対応し、まずは落ち着いてもらい、その後話を聞くなど適切に対応している。子ども間の暴力やいじめ等の徴候があった場合、昼食後の集合等でテーマに取り上げて話をし、早めの対応を徹底している。</p> <p>保護者からの強引な引き取りについて児童相談所と情報共有を図り、場合によっては警察を呼ぶなどの対応も行っている。マニュアルも作成している。不審者の侵入や保護者の強引な引き取りなどのリスクもあるため、時間を決めて門の施錠やモニター設置など管理体制について再検討をお願いしたい。</p>	

(9) 自主性、主体性を尊重した日常生活	第三者評価結果
① 日常生活のあり方について、子ども自身が自分たちの問題として主体的に考えるよう支援している。	Ⓐ・b・c
② 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など様々な生活技術が身につくよう支援している。	a・Ⓑ・c
(10) 学習支援、進路支援等	
① 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a・Ⓑ・c
② 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a・Ⓑ・c
③ 施設と学校との親密な連携のもとに子どもに対して学校教育を保障している。	Ⓐ・b・c
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	
<p>担当職員が中心となり、子どもの思いや意見を聞きながら、自分で選択できるよう支援している。毎月のお小遣いはそれぞれお小遣い帳で管理しており、必要時には助言を行っている。</p> <p>入所している子どもは学習の遅れが目立っており、学習ボランティアや塾の活用などにより学習支援を行っている。小中学校の先生の協力もあり、夏休みや放課後の指導が得られている。進路について小学生の頃から本人に将来どうなりたいかを尋ね、自分で思い描き、選択できるよう支援している。学習障がいを抱えている子どもも多く、保護者にも説明を行い、子ども自身の最善の利益について理解を促している。</p> <p>施設内の小学校分校とも連携が図れており、教諭と職員が情報を共有し、臨機応変に対応している。通常の教室に加え、音楽室や図工室、家庭科室、コンピューター室など設備も整っている。子ども達は先生のいう事をよく聞き、きちんと椅子に座って授業を受けていた。</p>	

(11) 継続性とアフターケア	第三者評価結果
① 子どもの状況に応じて退所後の社会生活を見据えた見立てを行い、支援している。	a・Ⓑ・c

③ 措置変更又は受入れに当たり継続性に配慮した対応を行っている。	a・ b ・c
③ 家庭引き取りにあたって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう家庭復帰後の支援を行っている。	a・ b ・c
④ 子どもが安定した生活を送ることができるよう退所後の支援を行っている。	a・ b ・c
(12) 通所による支援	
① 施設の治療的機能である生活支援や心理的ケアなどにより、通所による支援を行っている。	a・b・ c
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	
<p>将来の生活を見通し、子どもと相談しながら進学や就職など検討し、それに向けた支援を行っている。高校生になるとアルバイトをする子どもがほとんどである。</p> <p>家庭引き取りに当たり、地域の学校にスムーズに移行できるよう、児童相談所や学校と連携し、試験登校を段階的に行っている。また、通学していた学校から運動会や発表会などの案内があり、職員と一緒に行くことで、関係を継続している場合もある。</p> <p>退所後1年間をめどに様子確認の電話や保護者からの相談を実施し、必要があれば児童相談所と連携し対応している。夏祭りは毎年同じ日に開催しているため、退所生が参加しやすく、今の生活や困っていること等を聞くこともできる。</p> <p>退所後の1人暮らしをする場合の準備として調理や金銭管理など訓練する時間が少ない。退所までに身につけるべき事柄について基本的な計画を作成し、取り組んで頂きたい。</p>	

2 家族への支援

(1) 家族とのつながり	第三者評価結果
① 児童相談所と連携し、子どもと家族との関係調整を図ったり、家族からの相談に応じる体制づくりを行っている。	a ・b・c
② 子どもと家族の関係づくりのために、面会、外出、一時帰宅などを積極的に、かつ適切に行っている。	a・ b ・c
(2) 家族に対する支援	
① 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a・ b ・c
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	
<p>家庭支援専門相談員を中心に家族と子ども本人をつなぐ支援に努めている。</p> <p>子どもの生活環境や保護者の思い、課題などを把握するために、家庭訪問を行っている。自宅で顔を合わせて話をすることで、家庭支援専門相談員の思いも伝わりやすく、信頼関係の構築に繋がっている。県外の子どもの場合、保護者との繋がりが持ちにくい状況にある。スカイプやメール、便りなど繋がりを強化する取り組みをお願いしたい。</p> <p>キッチン設備のあるファミリールームがあり、親子関係の再構築のため、保護者と子ども2人で過ごしてもらうこともある。本人が家族と過ごしている時の雰囲気や会話など状況を把握し、家庭復帰に向けて課題となる部分をアドバイスしている。ファミリールームの有効な活用方法について多様な視点から検討を行い、新たな活用方法が増えることを期待している。</p> <p>行事があるときは家族に参加してもらうよう声をかけている。4月1日の春の集いでは家族参加によりホットケーキ作りを行い、子ども達も初めての経験となり楽しんでた。今後もこのような機会が増えることで親子一緒に笑顔になる時間が増えることを期待している。</p>	

3 自立支援計画、記録

(1) 自立支援計画の策定	第三者評価結果
① アセスメントに基づいて子ども一人一人の自立支援計画を策定するための体制を確立し、実際に機能させている。	a・b・c
② 自立支援計画について、定期的実施状況の振り返りや評価と計画の見直しを行う手順を施設として定め、実施している。	a・b・c
(2) 子どもの治療・支援に関する適切な記録	
① 子ども一人一人の治療・支援の実施状況を適切に記録している。	a・b・c
② 子どもや保護者等に関する記録の管理について、規程を定めるなど管理体制を確立し、適切に管理を行っている。	a・b・c
③ 子どもや保護者等の状況等に関する情報を職員が共有するための具体的な取組を行っている。	a・b・c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>子ども一人に対し、生活面、心理面、家庭面のそれぞれの担当を配置し、ケース会議にて現状について話し合っている。ケース会議には学校の先生や児童相談所の担当も参加し、検討課題について意見交換をしている。</p> <p>6ヶ月毎に自立支援計画を作成している。計画は子ども自身、保護者など家庭、必要な場合は医療的支援と分野毎に作成している。課題を主観的、客観的に示しており、分かりやすい。進路等、課題によっては本人の希望や意見を聞き、尊重している。また、設定した目標は担当職員から子どもに説明し、部屋に掲示し、目標達成を促す場合もある。</p> <p>日々の支援内容や箱庭療法や絵など心理士が行った治療内容はパソコンで管理している。また、朝礼や連絡ノートを活用し、日々の情報共有を図っている。個人情報については院長室の鍵付きロッカーで保管している。職員は個人情報保護について入社時に誓約書を交わしている。</p>	

4 権利擁護

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮	第三者評価結果
① 子どもを尊重した治療・支援についての基本姿勢を明示し、施設内で共通の理解を持つための取組を行っている。	a・b・c
② 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の治療・支援において実践している。	a・b・c
③ 子どもの発達に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。	a・b・c
④ 子どもの行動などの制限については、子どもの安全の確保等のために、他に取るべき方法がない場合であって子どもの最善の利益になる場合にのみ、適切に実施している。	a・b・c
⑤ 子どものプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備し、職員に周知するための取組を行っている。	a・b・c
⑥ 子どもや保護者の思想や信教の自由を保障している。	a・c
(2) 子どもの意向や主体性への配慮	
① 子どもや保護者の意向を把握する具体的な仕組みを整備し、その結果を踏まえて、治療・支援の内容の改善に向けた取組を行っている。	a・b・c
② 子ども自身が生活全般について自主的に考える活動を推進し、施設における生活改善に向けて積極的に取り組んでいる。	a・b・c

③ 施設が行う支援について事前に説明し、子どもが主体的に選択（自己決定）できるよう支援している。	a・ ③ ・c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>子どもを尊重した支援について事業計画の基本方針に明示し、年度初めの会議にて職員に説明しているが、日々の支援の中で目にすることは少ない。</p> <p>子どもの出生や生い立ちについてタイミングを見計らい、心理士から子ども達自身のライフストーリーとして伝えている。保護者から聞いた子どもの頃の様子や写真、子どもが覚えている思い出や経験などを年表に積み重ね、自分の人生だということを意識してもらうよう努めている。発達障がいがある場合には主治医や教師、心理士等が連携し、本人に特性を説明し、理解を促すよう取り組んでいる。</p> <p>月1回、子どもを主体とした自治会を開催し、困っていることやしてほしいこと等話し合い、職員に報告している。本を増やして欲しい等、身近な事が挙げられ、できることは反映するよう取り組んでいる。意見箱設置やアンケート調査も実施しており、出てきた質問や意見に対して回答を掲示している。</p> <p>子ども自身の自己決定を促すに当たり、自己責任の大切さも伝えている。学校や塾へ行きたくない等の場合、どういう理由でそう思っているのか、今後に向けてどうしたらいいのかを本人に問いかけ、答えを出してもらうようにしている。</p>	

(3) 入所時の説明等	第三者評価結果
① 子どもや保護者等に対して、治療・支援の内容を正しく理解できるように工夫を行い、情報の提供を行っている。	a・ ③ ・c
② 入所時に、施設で定めた様式に基づき治療・支援の内容や施設での約束ごとについて子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a・ ③ ・c
(4) 権利についての説明	
① 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	③ ・b・c
(5) 子どもが意見や苦情を述べやすい環境	
① 子どもが相談したり意見を述べたりしたい時に相談方法や相談相手を選択できる環境を整備し、子どもに伝えるための取組を行っている。	③ ・b・c
② 苦情解決の仕組みを確立し、子どもや保護者等に周知する取組を行うとともに、苦情解決の仕組みを機能させている。	a・ ③ ・c
③ 子ども等からの意見や苦情等に対する対応マニュアルを整備し、迅速に対応している。	a・ ③ ・c
(6) 被措置児童等虐待対応	
① いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	③ ・c
② 子どもに対する暴力、言葉による脅かし等の不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	③ ・b・c
③ 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	③ ・b・c
(7) 他者の尊重	
① 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。	③ ・b・c

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

入所時の説明は子ども用、保護者用の2種類のしおりを用意している。1度で伝える事は困難な為、入所後にも何回かに分けて説明している。

権利の説明として児童相談所より権利ノートの配布、説明があり、その後施設でも説明をしている。また、安全、安心、自由を基本とするCAPのワークショップを子ども達に向けて行っている。職員向けのワークショップもあり、子どもの権利について理解を促している。

子どもや保護者からの意見や苦情は家庭支援専門相談員や心理士を中心に会話の中で聞き取り、職員間で情報を共有している。対応について検討し、何らかの答えを出すようにしている。

被措置児童等虐待対応について、職員会議や朝礼などで折に触れて伝え、周知徹底を図っている。現在、協議会にて手引きを作成しており、現場の職員にも読んでもらい、意見を聞いている。外部研修があれば参加し、施設で職員に伝えるようにしている。

5 事故防止と安全対策

	第三者評価結果
① 事故、感染症の発生時など緊急時の子どもの安全確保のために、組織として体制を整備し、機能させている。	Ⓐ・b・c
② 災害時に対する子どもの安全確保のための取組を行っている。	Ⓐ・b・c
③ 子どもの安全を脅かす事例を組織として収集し、要因分析と対応策を行い、子どもの安全確保のためにリスクを把握し対策を実施している。	a・Ⓑ・c
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	
<p>法人に設置されているサービス向上委員会を中心に事故やヒヤリハット報告書について会議で検討し、事故の発生予防に努めている。また、年度末には第三者委員に年内の苦情や事故、ヒヤリハット事例について報告し、意見をもらっている。</p> <p>感染症に対するマニュアルを作成し、発生時には看護師を中心に適切な対応を行っている。昨年度、嘔吐下痢症が発生したため、保健所へ連絡をしている。職員だけでなく、子どもにも手洗い・うがい教室や勉強会を開催し、予防に努めている。</p> <p>災害対策として、月1回避難訓練を行っている。夜間、火災想定訓練が多く、中高生が門を開けるなどそれぞれが役割を持っている。訓練後は感想や反省点を話し合い、気付いたことは随時改善を図っている。地震や水害などの災害時の避難方法の検討や備蓄食糧の準備など、災害対策も行っている。緊急時には地域の方の協力も必要となるため、避難訓練の参加や地域での災害対策について話し合い、協力体制を構築できることを期待している。</p> <p>近くに警察の官舎があり、治安が良い地域ではあるが、不審者の侵入等子どもの安全を脅かす事例を検討し、何らかの対策やマニュアル作成をお願いしたい。</p>	

6 関係機関連携・地域支援

(1) 関係機関等の連携	第三者評価結果
① 施設の役割や機能を達成するために必要となる社会資源を明確にし、児童相談所など関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に明示し、その情報を職員間で共有している。	Ⓐ・b・c
② 児童相談所等の関係機関等との連携を適切に行い、定期的な連携の機会を確保し、具体的な取組や事例検討を行っている。	Ⓐ・b・c

(2) 地域との交流	
① 子どもと地域との交流を大切にし、交流を広げるための地域への働きかけを適切に行っている。	a・ b ・c
② 施設が有する機能を、地域に開放・提供する取組を積極的に行っている。	a・ b ・c
③ ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、受入れについての体制を整備している。	a ・b・c
(3) 地域支援	
① 地域の具体的な福祉ニーズを把握するための取組を積極的に行っている。	a・ b ・c
② 地域の福祉ニーズに基づき、施設の機能を活かして地域の子育てを支援する事業や活動を行っている。	a・ b ・c
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	
<p>児童相談所とは随時連絡を交わし、施設でのケース会議や保護者面接への参加、家庭訪問の同行などお願いしている。学校とは日頃から連携を図ると同時に、月1回の連絡会議も実施している。過去に警察の生活安全課から子どもへの指導を実施したことをきっかけにその後も繋がりがあり、クリスマスにプレゼントを持ってきてくれるなど気にかけてくれている。</p> <p>施設のグラウンドを町内の子供会や夏休みのラジオ体操、サッカーの練習、駐車場など、地域と打ち合わせの上、提供している。また、文化祭や学童保育など公民館活動にも協力し、公民館館長も施設にたびたび顔を出してくれている。</p> <p>ボランティア受け入れも多く、担当職員がオリエンテーションを行い、施設の特性や注意事項など説明している。掃除や遊び、学習ボランティアなど日常的事からイベントの手伝い等、いろいろな面で協力が得られている。施設の退所生がお手伝いにくることもある。</p> <p>地域の母親たちの育児に対しての悩みや相談を聞き、少しでもストレスを軽くするアドバイスができるような取り組みをしていきたいと考えている。子育てで悩んでいる母親が困った時に気軽に相談できるような取り組みを期待している。</p>	

7 職員の資質向上

	第三者評価結果
① 組織として職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	a ・b・c
② 職員一人一人について、基本姿勢に沿った教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取組が行われている。	a・ b ・c
③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行い、次の研修計画に反映させている。	a・ b ・c
④ スーパービジョンの体制を確立し、施設全体として職員一人一人の援助技術の向上を支援している。	a・ b ・c
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	
<p>法人において研修委員会があり、年間計画に基づいた研修や研究発表など積極的に行っている。専門的な研修については外部研修への参加を促し、職員の資質の向上につながっている。施設内ではH24年度は職員1人ひとりが得意分野を担当した勉強会やH25年度はビデオ視聴による勉強会など研修委員が計画し、実施している。H26年度に向けても検討中である。現在、職員、子供それぞれにCAPのワークショップを取り入れている。</p> <p>基幹的職員による職員に対する指導や助言、相談の受け付けは機能している。今後、現場の職員同士でのスーパービジョン体制をどう築いていくかが課題である。</p>	

8 施設の運営

(1) 運営理念、基本方針の確立と周知	第三者評価結果
① 法人や施設の運営理念を明文化し、法人と施設の使命や役割が反映されている。	Ⓐ・b・c
② 法人や施設の運営理念に基づき、適切な内容の基本方針が明文化されている。	Ⓐ・b・c
③ 運営理念や基本方針を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a・Ⓑ・c
④ 運営理念や基本方針を子どもや保護者に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a・b・Ⓒ
(2) 中・長期的なビジョンと計画の策定	
① 施設の運営理念や基本方針の実現に向けた施設の中・長期計画が策定されている。	Ⓐ・b・c
② 各年度の事業計画は、中・長期計画の内容を反映して策定されている。	a・Ⓑ・c
③ 事業計画を、職員等の参画のもとで策定されるとともに、実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われている。	a・Ⓑ・c
④ 事業計画を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a・Ⓑ・c
⑤ 事業計画を子ども等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a・b・Ⓒ
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>理念、基本方針はパンフレット、事業計画に明記されている。毎年4月には理念を職員に配布し、読み合わせをし、周知を図っているが、その他に会議などで話し合ったり、再確認をしたりする機会を設けていない。子どもや保護者には入所時に『入所のしおり』に基づいて説明をしている。</p> <p>事業計画は中・長期計画に基づいて優先的な項目を中心に作成している。治療、支援の質の向上として支援状況の透明化を図り、支援のマニュアル化や職員同士のフォロー体制作り、家庭支援の強化としてスカイプの活用なども検討している。事業計画を作成するに当たり、専門職員より意見を聞く機会を設けているが、今後どう反映していくかが課題である。</p>	

(3) 施設長の責任とリーダーシップ	第三者評価結果
① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して明らかにし、専門性に裏打ちされた信念と組織内での信頼をもとにリーダーシップを発揮している。	Ⓐ・b・c
② 施設長自ら、遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行い、組織全体をリードしている。	Ⓐ・b・c
③ 施設長は、治療・支援の質の向上に意欲を持ち、組織としての取組に十分な指導力を発揮している。	Ⓐ・b・c
④ 施設長は、経営や業務の効率化と改善に向けた取組に十分な指導力を発揮している。	Ⓐ・b・c
(4) 経営状況の把握	
① 施設運営をとりまく環境を的確に把握するための取組を行っている。	Ⓐ・b・c

② 運営状況を分析して課題を発見するとともに、改善に向けた取組を行っている。	㉠・b・c
③ 外部監査（外部の専門家による監査）を実施し、その結果に基づいた運営改善が実施されている。	㉠・b・c
<p>（特に評価が高い点、改善が求められる点）</p> <p>施設長自身、何かあれば最終的な責任を取る覚悟を持ちつつ、できるだけ職員の意見を聞き、いいところは取り入れていく柔軟性を持っている。「畑を作りたい」「ペンキを塗りたい」「外出をしたい」など職員からの「〇〇がしたい」という思いを実現できるよう、働きやすく、やりがいのある職場作りをモットーとしている。また、施設を知ってもらうためにも関係機関への働きかけや講師の受託、連絡会への参加など外部とのやり取りも積極的に行っている。</p> <p>経営面については平成23年に県から社会福祉法人旭川荘に経営移行となった当初、厳しい時期もあったが、現状把握や外部監査により改善を試みた結果、現在は改善に向かっている。県内外の児童相談所に施設の方針を理解してもらうため、何か起きたときだけに連絡をするのではなく、日常の中でいい所も知ってもらうよう情報提供することから始め、信頼関係を構築している。</p>	

<p>（5） 人事管理の体制整備</p> <p>① 施設が目標とする治療・支援の質を確保するため、必要な人材や人員体制に関する具体的なプランが確立しており、それに基づいた人事管理が実施されている。</p> <p>② 客観的な基準に基づき、定期的な人事考課が行われている。</p> <p>③ 職員の就業状況や意向を定期的に把握し、必要があれば改善に取り組む仕組みが構築されている。</p> <p>④ 職員処遇の充実を図るため、福利厚生や健康を維持するための取組を積極的に行っている。</p>	<p>第三者評価結果</p> <p>㉠・b・c</p> <p>a・㉠・c</p> <p>a・㉠・c</p> <p>㉠・b・c</p>
<p>（6） 実習生の受入れ</p> <p>① 実習生の受入れと育成について、基本的な姿勢を明確にした体制を整備し、効果的なプログラムを用意する等積極的な取組をしている。</p>	<p>㉠・b・c</p>
<p>（特に評価が高い点、改善が求められる点）</p> <p>人事考課について法人が年度末に職員に就業場所や労働環境など意向調査を行っている。常勤職員の場合、法人で人事管理をするため他施設への異動もあり、本人の意向や客観的な基準に基づいているとは言い難い。非常勤職員については施設長が直接面談し、本人の意向への配慮が感じられる。</p> <p>保育士や臨床心理士等の実習を受け入れている。大学が提示する実習目的に合わせて担当職員がスケジュールを作成している。実習の途中で心理、生活、家庭、施設長それぞれの分野から講和を行っている。実習後アンケートも行い、次回への参考にしている。</p>	

<p>（7） 標準的な実施方法の確立</p> <p>① 治療・支援について標準的な実施方法を文書化し、職員が共通の認識を持って行っている。</p> <p>② 標準的な実施方法について、定期的に検証し、必要な見直しを組織的に実施できるよう仕組みを定め、検証・見直しを行っている。</p>	<p>第三者評価結果</p> <p>a・㉠・c</p> <p>a・㉠・c</p>
--	--

(8) 評価と改善の取組	
① 施設運営や治療・支援の内容について、自己評価、第三者評価等、定期的に評価を行う体制を整備し、機能させている。	Ⓐ・b・c
② 評価の結果を分析し、施設として取り組むべき課題を明確にし、改善策や改善実施計画を立て実施している。	a・Ⓑ・c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>治療、支援の標準的な実施方法のマニュアル作成について、中・長期計画の中に組み込まれている。日頃の支援や心理治療等、大まかなマニュアルは作成している。今後に向けて今までの治療、支援の経験を活かした具体的なマニュアルの作成や保護者、学校など対策が必要な所へ支援方法の提示ができるよう、文章化に向けた取り組みを期待している。</p> <p>昨年度の自己評価を実施した結果、子ども達の生活空間に家庭的な温かさや居心地のよさが欠けているのではないかと話し合い、改善に向けて検討している。また、今回の第三者評価により外部から見た施設の評価を知り、施設の中身を充実するために役立てたいという意識をしっかりと持っている。</p>	